



フサカサゴ科ミノカサゴ亜科に帰属する属の標準和名

松沼瑞樹¹・本村浩之²

Author & Article Info

¹ 京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所（舞鶴市）
k1139853@kandai.jp (corresponding author)² 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jpReceived 20 April 2025
Revised 22 April 2025
Accepted 22 April 2025
Published 23 April 2025
DOI 10.34583/ichthy.54.0_69

Mizuki Matsunuma and Hiroyuki Motomura. 2025. Standard Japanese names of genera in the subfamily Pteroinae (Scorpaenidae). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 54: 69–71.

Abstract

Recent phylogenetic research have reconstructed generic systematics of the subfamily Pteroinae (Scorpaenidae). We proposed new standard Japanese names for *Nemapterois* Fowler, 1938 (Hireboshiminokasago-zoku), *Neochirus* Chou, Liu and Liao, 2023 (Shimahimeyamanokami-zoku) and *Pteropterus* Swainson, 1839 (Kimiokoze-zoku).

フサカサゴ科ミノカサゴ亜科には、これまで次の5属が認められていた：*Brachypterois* Fowler, 1938（標準和名：ノコギリカサゴ属）、*Ebosia* Jordan and Starks, 1904（エボシカサゴ属）、*Dendrochirus* Swainson, 1839（ヒメヤマノカミ属）、*Parapterois* Bleeker, 1876（セトミノカサゴ属）、および *Pterois* Oken, 1817（ミノカサゴ属）。最近, Chou et al. (2023) は遺伝子と形態、頭部の模様に基づき、ミノカサゴ亜科内の属の分類を再編し、従来の *Dendrochirus* と *Pterois* を分割し、前者の新参異名とされてきた *Nemapterois* Fowler, 1938 と、後者の新参異名とされてきた *Pteropterus* Swainson, 1839 を復活させるとともに、*Neochirus* Chou, Liu and Liao, 2023 を新属として記載した。この結果、本亜科は8属に整理された。本報告では、これら8属の標準和名を整理し、*Nemapterois*, *Neochirus*, および *Pteropterus* に新標準和名を提唱する。

材料と方法

日本産各種の学名と帰属は, Chou et al. (2023) にしたがった。日本産種の学名では、命名者と著作物の著者が異なる場合の表記 [“in” で連結する; 例: *Ebosia bleekeri* (Döderlein in Steindachner and Döderlein, 1884)] を省略した。標準和名の適応と提唱にあたっては「魚類の標準和名の命名ガイドライン」(日本魚類学会, 2020) にしたがった。

結果と考察

Genus ***Brachypterois*** Fowler, 1938

ノコギリカサゴ属 (Fig. 1A)

日本産種 2種：ノコギリカサゴ *Brachypterois serrulata* (Richardson, 1846); ヨコバノコギリカサゴ *Brachypterois serrulifer* Fowler, 1938.

備考 従来の標準和名から変更無し。タイプ種は *B. serrulifer*.

Genus ***Ebosia*** Jordan and Starks, 1904

エボシカサゴ属 (Fig. 1B)

日本産種 1種：エボシカサゴ *Ebosia bleekeri* (Döderlein, 1884).

備考 従来の標準和名から変更無し。タイプ種は *E. bleekeri*.

Genus ***Dendrochirus*** Swainson, 1839

ヒメヤマノカミ属 (Fig. 1C)

日本産種 2種：キリンミノ *Dendrochirus zebra* (Cuvier, 1829); シロヒメヤマノカミ *Dendrochirus koyo* Matsunuma and Motomura, 2019.

備考 Chou et al. (2023) は従来の *Dendrochirus* を、*Dendrochirus* と後述の *Nemapterois*, および *Neochirus* の3属に再編した。彼らによれば *Dendrochirus* には上記の2種のみが帰属する。

Brachirus Swainson, 1839 と *Dendrochirus* は、いずれも *Pterois zebra* (キリンミノ) をタイプ種として同一の著作

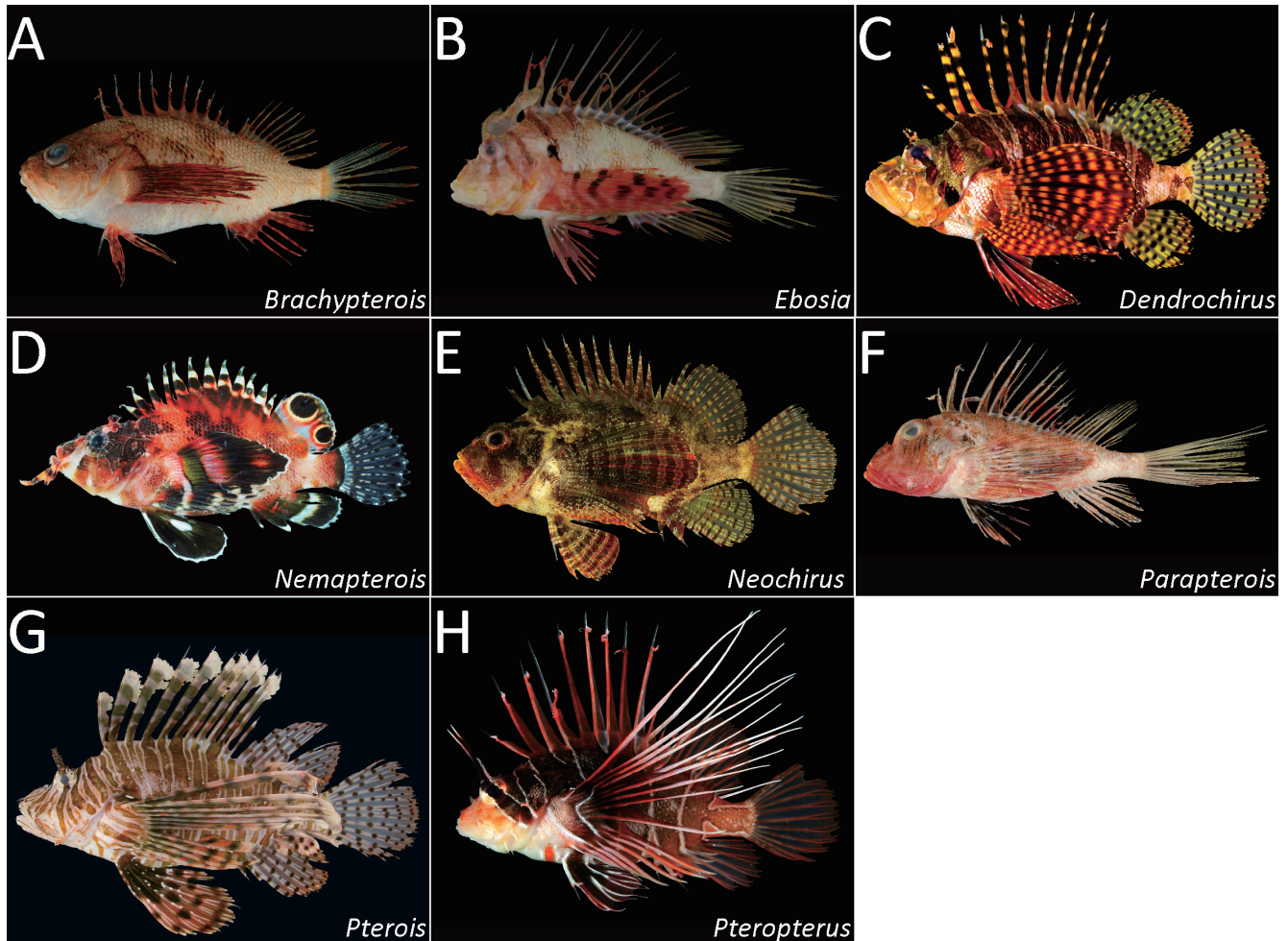


Fig. 1. Fresh specimens of selected Japanese members of Pteroinae. A: *Brachypterois serrulata* (KAUM-I. 6876); B: *Ebosia bleekeri* (KAUM-I. 35804); C: *Dendrochirus zebra* (KAUM-I. 28666); D: *Nemapterois biocellatus* (KAUM-I. 21999); E: *Neochirus brachyptera* (KAUM-I. 39791); F: *Parapterois heterura* (KAUM-I. 75522); G: *Pterois volitans* (KAUM-I. 19147); H: *Pteropterus radiata* (KAUM-I. 41254).

物 (Swainson, 1839) で創設された。 *Dendrochirus* に優先権があるため、現在ではこちらが有効な学名と認識されているが、過去には掲載ページの早い *Brachirus* に先取権があり、 *Brachirus* が有効な学名とされることがあった。日本国内でも同様に、初期の出版物では *Brachirus* が有効な学名として扱われ、例えば松原 (1955) は *Brachirus* に「ヒメヤマノカミ属」の和名をあてている。これは、当時認識されていた *Brachirus* に、 *Brachirus bellus* (ヒメヤマノカミ) が所属していたことに因むと考えられる。 *Dendrochirus* に優先権があると広く認められた近年の出版物においても、 *Dendrochirus* に対して「ヒメヤマノカミ属」の和名が引き続き用いられてきた [例えば中坊・甲斐 (2013)]。

Chou et al. (2023) により従来の *Dendrochirus* の帰属種が再編された結果、「ヒメヤマノカミ属」の由来であるヒメヤマノカミは、 *Neochirus* に移された。しかし、「魚類の標準和名の命名ガイドライン」の項 8 (標準和名の改称) の要件を参照すると、今回のケースでは改称は不要と判断されるため、 *Dendrochirus* の標準和名は引き続き、「ヒメヤマノカミ属」を用いることを提案する。

Genus ***Nemapterois*** Fowler, 1938

ヒレボシミノカサゴ属 (新称) (Fig. 1D)

日本産種 1 種：ヒレボシミノカサゴ *Nemapterois biocellatus* Fowler, 1938.

備考 *Nemapterois* には標準和名が無いため、「魚類の標準和名の命名ガイドライン」の項 4.2.1 にしたがいが、本属のタイプ種かつ唯一の構成種である *N. biocellatus* の標準和名を適用して、本属に対して「ヒレボシミノカサゴ属」を新称として提唱する。

Genus ***Neochirus*** Chou, Liu and Liao, 2023

シマヒメヤマノカミ属 (新称) (Fig. 1E)

日本産種 2 種：ヒメヤマノカミ *Neochirus bella* (Jordan and Hubbs, 1925); シマヒメヤマノカミ *Neochirus brachyptera* (Cuvier, 1829).

備考 従来、上記の 2 種は *Dendrochirus* に帰属されていたが、Chou et al. (2023) により彼らが新属として記載した *Neochirus* に移された。

Neochirus には標準和名が無いため、本属のタイプ種で

ある *N. brachyptera* の標準和名を適用して「シマヒメヤマノカミ属」を新称として提唱する。

Neochirus は女性名詞の属名のため、*D. brachypterus* と *D. bellus* はそれぞれ *N. brachyptera* と *N. bella* となる。

Genus ***Parapterois*** Bleeker, 1876

セトミノカサゴ属 (Fig. 1F)

日本産種 1 種：セトミノカサゴ *Parapterois heterura* (Bleeker, 1856).

備考 従来の標準和名から変更無し。タイプ種は *P. heterura*.

Genus ***Pterois*** Oken, 1817

ミノカサゴ属 (Fig. 1G)

日本産種 2 種：ミノカサゴ *Pterois lunulata* Temminck and Schlegel, 1843; ハナミノカサゴ *Pterois volitans* (Linnaeus, 1758).

備考 従来の標準和名から変更無し。タイプ種は *P. volitans*. 小枝 (2020) は鹿児島県大隅半島太平洋側から得られたミノカサゴ属の一種を *Pterois russelii* Bennett, 1831 によく似るが精査が必要と報告した。 *Pterois russelii* の日本での分布状況は著者らが検討を進めている。

Genus ***Pteropterus*** Swainson, 1839

キミオコゼ属 (新称) (Fig. 1H)

日本産種 3 種：ネッタイミノカサゴ *Pteropterus anntennata* (Bloch, 1787); ミズヒキミノカサゴ *Pteropterus paucispinula* (Matsunuma and Motomura, 2014); キミオコゼ *Pteropterus radiata* (Cuvier, 1829).

備考 上記の 3 種は、従来の *Pterois* に帰属されていた。 *Pteropterus* には標準和名が無いため、本属のタイプ種である *P. radiata* の標準和名を適用して、本属に対して「キミオコゼ属」を新称として提唱する。

謝 辞

本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651・23K20304・24K02087), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009), 文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」、および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた。

引用文献

- Chou, T.-K., M.-Y. Liu and T.-Y. Liao. 2023. Systematics of lionfishes (Scorpaenidae: Pteroini) using molecular and morphological data. *Frontiers in Marine Science*, 10: 1109655. [URL](#)
- 小枝圭太. 2020. ミノカサゴ属の一種 *Pterois* sp., p. 181. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編) 大隅市場魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. [URL](#)
- 松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索. II. 石崎書店, 東京. v + 791–1605 pp.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. 193. フサカサゴ科 Scorpaenidae, pp. 663–705, 1939–1949. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 日本魚類学会標準和名検討委員会. 2020. 魚類の標準和名の命名ガイドライン. [URL](#) (17 Apr. 2025)